

冬季のコクチバス生息場所調査

河川におけるコクチバスのリリース
を伴う調査研究

目的

平成27年度の農具川における潜水目視調査では、コクチバスの冬季の生息場所が確認できず不明であったことから、

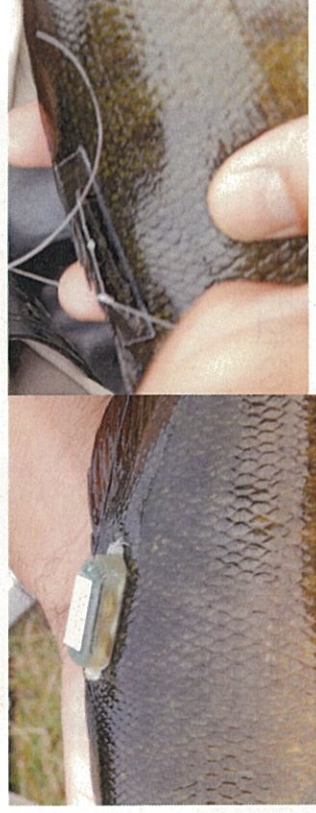
コクチバスに小型発信機を装着し、定期的な追跡することで、冬季生息場所を特定する。

材料と方法

- 釣り、刺網で捕獲したコクチバス大型魚2尾に発信機を装着し、現場で再放流した(装着機器No.75、No.76)。
- 週1回受信器を用いて装着個体の所在を確認し、確認場所の水温を測定した。
- 同一場所からの移動の形跡がない場合は、発信機脱落の可能性があるので、目視または水中ビデオで装着個体の様子を確認した。

コクチバスに装着した発信機

品名: 小型水中生物用発信機LT-04-2	(株) サーキットデザイン製
サイズ	13mm × 28mm (重量5g)
送信周波数	142.96MHz
送信間隔	1回/10秒
実用通信距離	50m(受信機の性能や使用条件による)
電池寿命	約3ヶ月



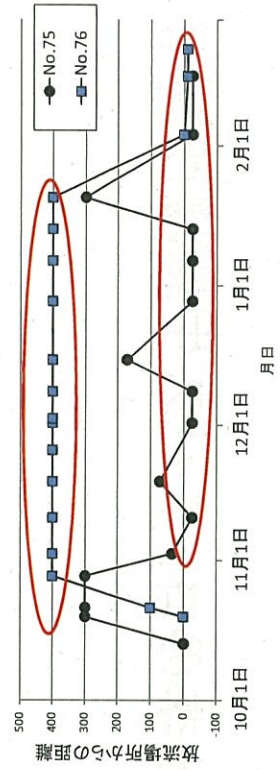
発信器の装着状況



受信機で発信機の位置を探索



✂: 放流位置
✂: 最終確認位置



上流部のNo.75が多く確認された場所 流れが緩い暗渠の中



中流部のNo.76が多く確認された場所
潜水目視では見えない流れの緩いツルヨシ群落の奥



9

No.76の確認場所の水中ビデオによる観察結果(動画)

①12月2日 水温8.0°C(10:50)

②12月22日 水温5.6°C(9:30)

10

まとめ

- ・ 冬の越冬場所
それぞれ流れの緩い場所を選択
No.75(上流):水路、暗渠の下
No.76(中流):ツルヨシ等の根の奥
- ・ 中流No.76のビデオ観察では、
単独生活(近くに他のコクチバスは確認されない)
水温5.6°Cの時は流れが直接当たらない片隅で静止

11

